長善館 友の會報
令和６年３月31日
第５号

長善館址碑のこと

友の会会長
小原秀一

長善館友の会の活動は、令和二年十二月の佐藤海山氏の講演会を最後に、令和三年及び四年とも、新型コロナウイルスのため、活動を停止せざるを得なくなっていました。しかし、ようやく令和五年度になって、総会こそ少し時期が遅れましたが、活動を再開できるようになって大変ありがたく思います。十一月の視察研修旅行や十二月の学習会も無事行うことができました。参加された会員の方には、感謝申し上げます。ありがとうございました。

さて、長善館が江戸末期から明治末までの八十年間、文臺・惕軒・柿園・彦嶽の四先生により運営された新潟県屈指の私塾であったことはよく知られていますが、その後、長善館の輝かしい事跡を顕彰し、次代を担う青年諸君に広く知ってもらうことを祈念し奔走努力した人のことを紹介したいと思います。

その人は、長善館友の会初代会長の星野昭英氏の父上である星野甚四郎氏であります。甚四郎氏は、昭和三十五年建立の長善館址碑の址碑建設世話人会の会長であり、址碑完成後の長善館史跡保存会会長でもありました。長善館学塾資料の保存に大きく関わっています。長善館址碑の建立については、燕市立図書館に「長善館餘話」という本があるので参考にされたいと思います。その中から一部抜粋します。

「長善館址碑建設のいきさつ」

中国文学研究の功により昭和三十三年十一月文化功労者として受賞された豹軒鈴木虎雄文学博士が偶々翌春郷里に錦を飾られた折、郷里吉田町の主催で五月九日粟生津小学校に於て鈴木博士受賞祝賀会が行われた。翌十日私的な歓迎行事「豹軒先生を囲む会」が星野甚四郎宅で催され、町三役を始め吉田・巻・弥彦・分水・和島から六十余名が集った。（中略）鈴木博士より支那に留学当時のお話を聴き一問一答の終った頃、星野甚四郎の私見として博士受賞の機会を期して長善館碑を建てたいとの切なる懇望を述べ、博士に址碑の撰文をお願いした処、即座に御承諾を頂いた。博士は殆んど酒を嗜まれないので簡単な昼食（内野町いづ茂よりのウナギ蒲焼、堀川やの鯛の刺身、モゾクの酢のもの等）を済ませ、少憩の後余興に移り、（中略）和気藹々裡に幕を閉じた。

（参考文献）『長善館餘話』昭和六十二年
長善館史蹟保存会

長善館史料館収蔵資料解説学習会

長善館友の会では、令和五年十二月九日㈯に、収蔵資料解説学習会を開催しました。今回は、初代館主鈴木文臺の書と二代館主惕軒が少年の頃、父親の適翁から授かった書を取り上げ、参加者全員で鑑賞しました。そして、文臺の学問観、教育観等について考察するとともに、惕軒の少年時代を偲びました。

―読み―

学は精密を貴び兼ねて博覧（はくらん）せんことを欲す。蓋（けだ）し精密ならざれば得る所の者は浅し。博覧せざれば即ち見る所の者は陋（せま）し。得る所の者浅ければ泛濫守（はんらんしゅ）を失う。見る所の者陋（せま）ければ即ち偏枯（へんこ）通ずる無し。精密は博覧を裁く所以（ゆえん）なり。博覧は精密を助ける所以なり。古今を

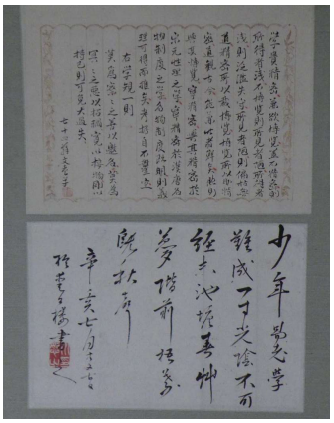
通観するに能く此れを兼ねる者は鮮し。然れば即ち其の博覧するよりは寧ろ精密たるか。其の精密たるは宋元の性理の学に精密たらんよりは寧ろ漢唐の名物制度の学に精密たれ。名物制度は既に明らかなり。即ち義理は得て推すべし。考据せば自ら鑿空ならず。

右学規一則

察々の善を為して以つて名を邀むること莫かれ。冥々の悪を為して以つて禍を招くこと莫かれ。寛くして以つて物に接し剛くして以つて己に持せば即ち大禍を免かれるべし。

七十四翁　文臺草

この書は、文臺の学問研究や指導の基本的な考えを知ることのできる資料の一つです。



「学規」鈴木文臺筆

―読み―

少年老い易く学成り難し。一寸の光陰軽んずべからず。未だ覚めず池塘春草の夢。階前の梧葉既に秋声。

辛亥七月廿又七日

愛日楼に於いて之を書く

惕軒は十五歳の時に長善館に入門し、辛亥（一八五一年）の年は十六歳であった。この年の三月に父親の適翁が惕軒にこの書を授けた。惕軒は、この書を座右に置いて文臺の「学規一則」とともに大切に保存し、自らの戒めとしたものと思われます。

〈視察研修〉 視察研修に参加して

長善館友の会　高橋智文

今回長善館の視察旅行に初めて参加しました。聞くところによりますと、新型コロナの影響でしばらく旅行はお休みだったという事でした。それでも曇天にときどき小雨のまじるなか午前十時前に粟生津体育文化センターに二〇名以上の参加者がありました。いかにこの企画を大勢の人が待ちわびていたかということが分かります。

バスの中で役員さんたちの挨拶があり、副会長から当日用の資料が配布され、以前に視察に行かれた御苦労が覗えました。

最初に「澤将監の館」です。平成にふるさと創生基金を活用して総額七億三九〇〇万円の大工事が行われたそうです。この澤家は大庄屋でした。石高五百石といわれ、古い家相図を基に今の建物に復元されました。それによりますと敷地面積九千平方メートルあります。材木は主に欅を使用し、他は杉の木を使用しています。

広間から始まって案内人の方の詳しい説明で分かりました。大きな規模の事業でありながら細部を調査され、新潟県に残る豪農の館を参考にしながら、澤家の歴史を思い浮かべるように造作されています。建物の南側には風水のとおりに池があります。その上を紐が幾重にも渡され、鯉が鷺の餌にならないようにしてあります。最近は各地でそうしているのをよく見かけます。

大広間から客室、湯舟まで拝見しました。ぐるりと一周したときに既に予定時間を十五分超過しました。最後に資料館に行き、古文書資料を拝見し、家代々の家宝も見せて頂きました。案内人の長時間の説明に頭が下がる思いでした。さら

▶澤将監の館庭園

に最後にはバスの駐車場まで見送ってくださいました。

次に、「中之口先人館」に着きました。十一時二十五分でした。横綱羽黒山で有名な館です。入口の土俵は雪除けのシートがかかっていました。配布された資料では、長善館らしく小柳卯三郎（一八四三～一九一五）と小柳司氣太（一八七〇～一九四〇）の経歴が載っています。前者は長善館に入門して衆議院議員となり、大河津分水用弁係を務め、西蒲原の上郷普通水利組合の創立を小島太郎一氏としました。後者も長善館に入門して東京帝国大学文化大学漢字科を卒業後、同校講師をし服部宇之吉氏と共著で『詳解漢和大字典』を刊行しました。他に多くの著作があります。その後、大東文化学院学長になりました。

さて入館しますと、すぐにＤＶＤの視聴になりました。何といってもこの館の売りは「横綱羽黒山」です。彼は東京に出て風呂屋の下働きをしていた時に先代の親方にその才能を見出されました（米搗きではなかったかという声も聞かれました）。精進して横綱になった彼の土俵入りの化粧マワシを地元の人達が寄附しました。それは郷里の羽黒神社を新潟の画家、尾竹國観に描いてもらったものでした。館内に新しく展示されています。それから東映映画会社の創立者、大川博の事蹟の映像が流れました。さらに小柳司氣太の事蹟も流れました。約一〇分ほどでした。

館内には新しい資料も展示されています。特に相撲関係が顕著でした。その他に小柳司氣太の資料も多くなっています。以前は『詳解漢和大字典』だけでしたが、今回は多くの資料がありました。その中でも小柳宛の有名人の漢詩を書いたものなどがありました。

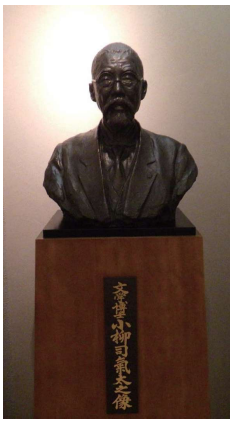
昼食は「ニュー松葉屋」でソバと御飯の二種類のものを事前に予約していました。副会長の方から皆さんに簡単な挨拶をすることを提案されました。それが一巡して、副会長から三条からおいでの佐藤海山氏に諸橋轍次記念館と小柳司氣太の業績の比較についてのお話をたのまれ、氏はそのことについて喜んでお話をして下さいました。その中でも諸橋氏のものは大きな業績であり五万字の辞書は世界でもまれなことでした。中国が国際機関に自国の辞書を上げたとき、大変薄いもので、時の周恩来首相は国家的事業として辞書を六万字に編集されたそうです。現在でも諸橋の物は民間の辞書として最高のものだというお話が耳に残りました。

午後は「巻郷土資料館」に向かいました。「のぞきからくり」が現存している所です。講釈師がいませんので、以前録画していた「幽霊の継子いじめ」の段を見ました。明治期のいいお屋敷の設定でしたが、人間の情には今も昔も変わらぬものがありました。「のぞきからくり」は昭和一〇年頃まで興行があったそうです。昭和六十一年に巻町有形民俗文化財になりました。この日は口演をする人が不在で残念でした。「のぞきからくり」の新しい舞台は「八百屋お七」です。製作には大きな手間と費用が掛かるそうです。

巻郷土資料館の特別展は「平野秀吉蔵品展」です。この日が最終日でした。彼は高田師範の教員をして、万葉集の研究、唐詩の研究、良寛の研究をしていました。近年の研究では歌人で東洋美術の研究家で早稲田大学教授だった会津八一と師弟の関係にあることが注目を浴びました。そのため、歌人斎藤茂吉の和歌などが資料として含まれています。他に良寛の和歌等があります。

冊子「平野秀吉旧蔵品展の解説」が配布されました。それによると案内人をしている槇田善衛氏が調査した資料です。彼は新大院生、明星大学の博士後期課程在学のようです。名高い岡村鉄琴の門下生で、大変な努力をされ勉強されています。鈴木虎雄校閲の東郷豊治の『良寛全集』からのものは高田師範の教諭をしていたため交流があったことを物語っています。そのことは『巻町双書第十七集平野秀吉』に出ています。

最後は「岩室民俗史料館」です。館長さん以下でお迎えして下さいました。三つの地区の民俗史料があります。平地か



▶小柳司氣太之像

▶巻郷土資料館

ら海部の史料が一同に集められています。旧和納幼稚園を史料館にしています。そのため農具、衣類、生活具、魚具、鍛冶道具、機械機、照明、玩具などが分類されています。「いにしえのくらし」、「なつかしの思い出」、「茶の間（交流室）」があります。中でも、最近新潟から調査にはいられて眼をつけられたのが「鍛冶道具」でした。この地区は野鍛冶屋が多くいました。イシと呼ばれる地石で金属の消耗がいろいろあり、個々の注文に対応していた鍛冶職人の作業にともなって多くの道具が生み出されたようです。それを論文にした人がおったそうです。我々凡人はそんな研究はできませんが、話を聞いてそんなことが研究対象になるものだと感心していました。廊下に西蒲原の昔の写真が展示してありました。地元の写真でもあり話に夢中になって、時間を忘れて話が盛り上がって、楽しい時を過ごしていたようでした。

無事、バスは粟生津体育文化センターに午後三時過ぎに着きました。一同散会となりまして、雨もようやく上がって来たようです。懐かしさと心良い疲労が残りました。会の運営者の皆様のご苦労に感謝しつつ帰路に着きました。

▶巻郷土資料館

●長善館小話●

入門時の惕軒

惕軒は十五歳の時、長善館に入門した。生活規則をはじめ、余りにも厳しい日日に耐えかねて翌年の春三月に帰省し、その折にこぼしたことがあった。

このことを聞きつけた父適翁は、「汝柔弱、儒者トナリ難シ…」と叱り、「少年老い易く…」の詩を書いて授けた。その時、自分に負けず人にも負けずの教育のやりとりがあった。惕軒は大いに恥じて決心し、「之ヨリシテ後、用事ナク、或ハ友人ノ誘ヒ来ル有ラザレバ盟テ門外二出デズ」と日記に残している。

偉人マンガ「鈴木文臺」販売中!!

長善館初代館主 鈴木文臺を描いたマンガ本が長善館史料館や燕市内の図書館で販売中です。温かみあるイラストで描かれているので、手軽に楽しく読むことができます。（昨年度に会員の皆様に配布しましたが、お手元に届いていない方は、長善館友の会の会事務局までご連絡ください。）

長善館友の会 新年度会員募集

長善館友の会は、随時会員を募集しています。

年会費は、個人会費五〇〇円・事業所会費は一、〇〇〇円です。

年齢・市内外問わず誰でも大歓迎です。入会に関する詳細は長善館友の会事務局まで。

☎0256-93-5400

●一般印刷●名刺・はがき・封筒●書籍・刊行物
真滝プリント
〒959-0242 新潟県燕市吉田大保町 2-13
TEL. 0256-92-7820

編集後記

長善館友の会は、新型コロナウイルス感染症の影響で、三年間思うように活動ができませんでした。

今年度からは、夏の総会、秋の視察研修会、冬の学習会など例年通りの活動を再開しました。

特に、視察研修会では二〇名の参加者があり、長善館のみならず、燕市周辺の歴史に触れる大変有意義な時間を過ごすことができました。

来年度も、会員の皆様が楽しみながら学べる企画を考えてまいりますので、ご参加いただければ幸いです。また、長善館史料館でも様々な企画展がございます。多くの皆さまのご来館をお待ちしております。

発行　長善館友の会
事務局　燕市長善館史料館内
〒九五九ー〇二二七
新潟県燕市粟生津九七番地
電話　〇二五六ー九三ー五四〇〇